

轉 教

平成28年夏
特別号

平成28年8月28日発行
第17巻第9号 通算198号
編集兼発行人 山本 久男
発行所 佛立本旨講 妙應寺
〒113-0021
東京都文京区本駒込6-6-11
☎ 03-5319-3490
FAX 03-5319-3491

開導嗣法
第十五世

日晨上人御三十三回忌厳修記念



「未来への扉を開く」とびら

水谷信洋

大正十二年から昭和十六年にかけて、東京周辺の教務員を対象にした勉強会が開催されてきました。日晨上人は教務員教育の将来を憂慮され、後の十三世日如上人とともに、日歡上人・日声上人（麻布光隆寺住職）の御指図をいただいて、乗泉寺と光隆寺を会場にして毎月二日間、妙講一座、みょうこういちざ如説修行抄、にょせつしゆぎようしやう四信五品抄、ししんごほんしやう法華宗略名目、ほけきやうたいい御法門等の勉強会を実施していただいたのです。講師は佛立講初代の教学長をお努めになった宗内

切つての碩学、伊達日彰上人です。せきがく残念ながらこの勉強会は昭和十六年、伊達日彰上人の突然のご遷化せんげによって中断を余儀なくされますが、私の手元に当時の日晨上人の手書きのノートが残されています。それを拝見していると、日晨上人が如何に教務員の教育に情熱を傾けておられたか伝わってくるものがあります。当時はまだ開導日扇聖人の御指南全集などの編纂も完成しておらず、教務員といえども御指南書等の資料に直接ふれることは困難な時

代でした。そのために、講義内容は御経文おきようもんや高祖御遺文こうそごいぶんや御指南を多く引用するなど、若手教務員の育成に主眼を置いたものだったようです。

日晨上人が乗泉寺住職に就任なさったのは大正十二年十一月、関東大震災が起きた三か月後のことでした。幸い麻布乗泉寺の本堂は倒壊とうかいを免れ、また建築中の新本堂も骨組みのみで重い瓦を乗せていなかったのが幸いして無事でした。被災した信者に援助の手を差し伸べ東京の復興に取り組む一方で新本堂建立事業も継続させ、翌年一月には新本堂完成、昭和二年五月には盛大な開筵式かいえんしきを行うなど、日晨上人は未来

を見つめて次々と新しい扉を開いていったのです。

太平洋戦争終結とともに廃止された宗教団体法に代わって「宗教法人令」が新たに施行しこうされたのを機に、佛立講は正式しきうきようほうじんほんもんぶつりゆうしゆうに宗教法人本門佛立宗を結成することになります。一宗独立した宗教法人を運営するには、宗教活動の目的や宗旨、運営方法を明文化した宗制を作成しなければなりません。

その任に当たられた日晨上人は、法華宗の一団体であった時代からの苦労を見つめて来た経験を活かして、法律に基づいた宗門運営の近代化をすすめられました。

日晨上人の思い出



日晨上人第二十七回忌

記念展示コーナーで

思い出が巡ります

◆ 荏原教区Sさん

日晨上人の展示コーナーを拝見いたしました。私が会津の喜多方のお寺に居りました時、初めて日晨上人にお目にかかったのは、喜多方に新しくお寺が出来て開筵式の時、御給仕係を受け持たされ母と二人でご奉公をさせていただきました。二度目にお目にかかった時は、新しい



年末恒例の教区集合写真
佐藤さんは後列中央
(平成23年)

奥様と喜多方の山ぎわに熱塩温泉にお泊りになられ、部長さんの奥さんと二人夕食の御給仕に出させていただきました。二人とも固くなっていたら、おやさしい言葉をかけて下さり、ホッ

としたことが、ここで日晨上人のお写真を見て思い出されました。

日晨上人第三十三回忌

母から聞いたこと

◆ かながわ東教区Sさん

母、鎌奥知子のことです。明治42年生まれですが、日晨上人が乗泉寺の御導師になられたころ、娘ざかりの母は、ご一緒にご奉公をさせていただいておりました。その際に、日晨上人は母を「知子さん、知子さん」と呼んでくれていたそうです。

それから30年ほど立った昭和50年代、石渡日出子さんのお宅

で甲の御講があつた時に久しぶりにお会いしました。その時、日晨上人も母のことを覚えていて下さり、嬉しさのあまり思わず涙が出た…と話しをしておりました。

「いい男じゃないか」

◆小山教区ーさん

日晨上人をお迎えして甲御講を奉修させて頂きました。主人と私の二人そろつてご挨拶を申し上げました。すると御導師は、「ヤア！いい男じゃないか、揃つて結構なことだ」と大変お喜び頂きました。



日晨上人をお迎えた甲御講磯谷さんは後列右から3人目

我が家でもいつか

◆練馬教区Eさん

日晨上人の思い出は、真白な足袋の足元です。それは子供のころ、母に連れられてお参詣した甲御講。広いお宅に人がぎっしり座る中、そばに座って母か

ら「通り過ぎるまで頭を上げては駄目よ」と言われてました。子供ですから、頭は下げても目は上目使いです。上人がお通りになって御講が始まります。また、成長してお参詣した時には庭で下足のご奉公。「私もこんな大きな家に住んで甲御講の席主になりたいなあ」と思つたものです。

いま、願いは叶って大きくはないものの、家族全員で甲御講願主・席主も務めさせていただいています。とつてもしあわせです。

日晨上人御一代記

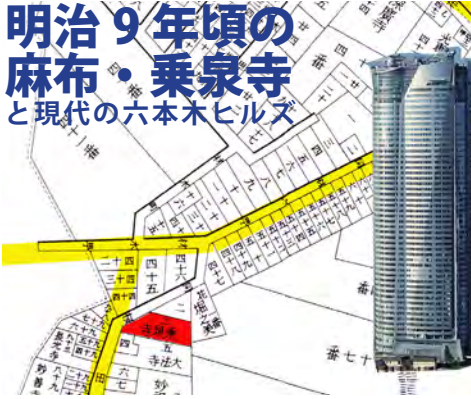


明治32年に日叡上人は荒れ寺の乗泉寺に住職を拝命しますが、この時の乗泉寺は現在の六本木

ヒルズ（写真合成）のある麻布材木町にありました。

麻布時代

日晨上人は、明治32年（一八九九年）10月26日、麻布でのご誕生。日教上人より清長と



命名されます。

東京府立一中在学中、16歳で乗泉寺にて日叡上人により御剃髪、得度され僧名は清長に。



大正10年より受け持ち御講師になられ、大正12年に資質を認められ副御導師を拝命されます。

関東大震災

同年9月の関東大震災では、日晨上人のご命令で、御本尊、



開導嗣法第四世
 乘泉寺第十五世住職
 嘉永6年(1853年)ご誕生
 明治43年(1910年)1月17日御遷化
 56歳

開導嗣法第八世
 乘泉寺第十八世住職
 中興開基・田中日歎上人



開導嗣法第八世
 乘泉寺第十八世住職
 中興開基・田中日歎上人

開導嗣法第八世
 乘泉寺第十八世住職
 中興開基・田中日歎上人

御尊像を当時改築中の本堂へお移し、また、避難してくる御信者さんには炊き出しを行い、近隣への配慮も忘れなかつたと、乗泉寺史に記されています。同年11月12日弱冠25歳にて乗泉寺第19世住職に。以後、昭和50年4月に、日尚上人にご住職を譲られるまで約50有余年のご奉公でした。



新本堂建立



明治時代は右頁地図の赤い部分が136坪の乗泉寺。大正9年秋に南側の隣地を買収して445坪に拡張。

大正13年に麻布乗泉寺本堂が完成しました。

日歎上人は大正6年、本堂改築への発願をされます。明治32年以来、10倍以上に増えた御信者さんに対応するために、本堂を継ぎ足し継ぎ足しで拡張して

きましたので、本堂改築を願う声が湧き上がってきたのです。

第一次大戦後の好景気時代から一転、不況の世相にもかかわらず、多くの御信者さんからの建設御有志が集まり、資金の目途もつきました。隣地への拡張も含め計画は順調に進んでいきます。新築祈念総講では懸命にあげるお題目の口唱が門外まで聞こえ、材木町ではなく、「題目町」という異名すら取ったほどでした。

大正12年2月に起工式。前述の通り、9月に関東大震災に見舞われますが、翌13年に麻布新本堂が完成しました。開筵式は昭和2年5月7日から4日間に



開筵式当日は、材木町に向かう市電は参詣者でいっぱい。皇居前を通り歩いて麻布まで向かう参詣団

わたって挙行されました。

会計制度の確立

日歡上人は、乗泉寺の規模拡

張と共に、財政制度の確立が必要になりました。そこで、「お寺のお金は御法のためであり、御宝前のものである。御法のお金は私すべきではなく、特に大切にしなければならぬ」という財政方針を示されました。これに従い、日晨上人は、この財政方針を一貫して引き継ぐために昭和5年に予算制度を導入されます。

本堂焼失

昭和20年5月25日東京大空襲で焼失してしまいます。

その日は、夜のお総講が終わり、11時ごろに空襲警報が発令されました。「それ、御本尊、御尊像を

お庫くらに！」と日晨上人のご命令
一下、三階建ての倉庫にご遷座。
焼夷弾爆撃が始まったのが12時
過ぎ。倉庫のみを残して乗泉寺
はほぼ全焼してしまいました。

茫然自失の教講を46歳の日晨
上人が先頭に立ち激励して再建
に着手されます。とりあえず庫
裏の地下室を地下道場にして幸
いご安泰だった御本尊と御尊像
をお祀りしました。その後、復
興仮本堂は昭和20年12月末に完
成しました。

一宗独立

当初、佛立講は、本門法華宗
の所属でしたが、昭和8年に一

宗内別派として認められました
が、戦後昭和22年、一宗独立を
勝ち取ります。その間、GHQ
や文部省（当時）との折衝に当
たられたのは日晨上人でした。
そして、宗門の法律たる宗法
を制定されます。

渋谷時代

昭和二十五年五月、日晨上人
は麻布から渋谷・鶯谷に乗泉寺
を移されます。移転の理由は、
麻布・乗泉寺にお参詣するには、
都電を使うしかなく、交通の便
がよくなかったからです。そこ
で、国電の駅から歩いてお参詣
できるといふ条件で候補地を探

しておられました。

当時の鶯谷は、柿畑、茶畑、
大王松が栽培されている一面の
畑。四〇〇〇坪の広大な土地は、
風が吹くと砂埃の舞う土地でし
た。渋谷駅から歩いて行けるけ
れど、坂の上り下りがありまし
たが、昭和23年に日晨上人の御
英断でこの地を新乗泉寺とされ



盛岡市・広宣寺のHPより

ました。

翌24年仮本堂の落成。その後、教務会館を建て、昭和39年に、現在の近代的なデザインの新北堂が完成しました。当時の木造の仮本堂は、岩手県盛岡市の広宣寺に移築され現在でもその御内陣は当時の面影を残しております。(前ページ写真)

開筵式

昭和40年、開筵式が11月13日から4日間にわたり挙行されました。日晨上人66歳の時でした。この頃の話題になりますと、御記憶のある皆さんも多いことでしょう。こんな話が乗泉寺史で

紹介されておりますが、覚えて
いますか？

4万3千人のお参詣者の下足
当番のご奉公で、行方不明に
なったのはたったの一足。当時
の乗泉寺を支えていたみなさん
の方々の並々ならぬご奉公の賜
物でした。

当時の御供養のお弁当は自家
製。お会式などの時は、大きな
お釜でご飯を炊いていました。
夏場のご奉公の暑いこと！



昭和46年11月3日

叙勲

日晨上人は、昭和39年にブラ
ジル巡教に向かわれます。その
際のブラジルでの功績を認めら
れ南十字星文化勲章コメンタ
ドール称号を受けます。

また、昭和46年、72歳の日晨
上人は、勲三等瑞宝章の勲章を
皇居において、佐藤栄作首相よ
り受けられます。これは教育事
業貢献の功績によるものでし
た。

和光学園を育て、昭和41年に
発刊された月間総合雑誌「泉の
光」の著名人との対話を通じて、
対社会的貢献度は計り知れない
ものがありました。



この写真は、二十七回忌の際に企画された記念展示での「泉の光・鶯谷対談」コーナー。毎号各界の著名人をゲストに招いて、日晨上人が人間味豊かな対談を行ったものです。佐藤栄作、徳川夢声、淡谷のり子、柳家小さん等、政界、文化人、芸能人など幅広いお相手が話題でし

た。

御遷化

開筵式の翌年、昭和41年、新本堂の威容にふさわしく乗泉寺の新体制が発足します。執事長に水谷清興師（日尚上人）が任命されました。

日晨上人は、昭和50年乗泉寺住職をご退任になり、日尚上人が第二十世住職として就任されます。その後も、高祖七百回御遠諱奉修（昭和56年）、戦後作られた宗法を改正して、宗風を

明文化、ご信者のあるべき姿を明らかにしてそれを永続化しようと考えられます。

昭和59年8月31日、弟子信徒の晨朝勤行の中、ご遷化されます。法寿八十四歳でした。



27回忌の記念行事。日晨上人から日尚上人へ、そして今、日在導師への系譜を展示しました。

平成二十八年八月二十八日（日）午前十時半より法要奉修
家族揃ってお参詣させていただきます。



信しんを以もつて慧えに代かう、と読よみます。
 日蓮聖人の四信五品抄しんごほんしやうという御書に「仏正ほとけまさしく戒定かいじやうの二法にほうを制止しして一向いかうに慧えの一分いぶんに限かぎる。慧え又また堪たへざれば信しんを以もつて慧えに代かふ。信の一字いちじを詮せんとなす。」とあるのが出典です。仏の覚りを理解する智慧しゆじやうもない末法まつぽうの衆生しゆじやうはただ信心しんを以もつて慧えに代かえ名字みょうじ即すなはちの位ゐに入いるべし、という信心修行の肝心要かんしんやうを示している一文です。
 日晨上人は、信者たるものは信の一字という精神を片時も忘れてはいけませんよ、という御意みごころからこの四文字を御認おしためになられたものと拝察はいさつします。